

# 取扱注意

## 事業「見える化」計画書（奈良県事業承継ネットワーク）

作成年月日	年 月 日	改定
-------	-------	----

企業概要	企業名	NARA工業株式会社		
	企業形態	個人事業・ <b>法人</b>	資本金 (法人)	2,000万円
	現経営者	奈良 太郎	後継者 (候補1)	奈良 一郎
	後継者 (候補2)	奈良 次郎	後継者 (候補3)	奈良 花子
	承継形態	<b>親族内</b> 従業員等 第三者	承継時期	5年後を予定
	経営状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業内容：プラスチック成型業（射出成型）</li> <li>現在の2代目社長就任を機に、新設備の導入、家電分野での品種拡大による売上拡大を図ってきた。</li> <li>昨年度は比較的好調であったが、家電分野での需要減が予想される。</li> </ul>		
経営者情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和25年創業、現社長は2代目として昭和60年社長就任。現在64歳。</li> <li>創業時（先代社長）は、くし、ボタンなどのプラスチック製品の製造から始め、現社長が白物家電部へと事業分野を拡げてきた。</li> <li>社長が経営方針を決定し、社長自ら積極的に営業を行っている。</li> </ul>			
後継者（候補） 情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>奈良 一郎：奈良太郎氏の長男。現在35歳。</li> <li>自動車関連メーカー（技術職）に勤めていたが3年前に退職し当社入社、現在は現社長の下で営業として勤務中。</li> <li>意欲はあるが経営者としての知識不足があり、NARA工業での経験も浅い。</li> </ul>			

経営環境分析			
内部環境	強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①経営面：現社長の対人能力が高い。3期連続で黒字経営が続いている。</li> <li>②営業面：社長自らが積極的に行い、即断即決している。</li> <li>③品質・技術面：顧客からの品質、納期遵守面での評価が高い。大型射出成型（400t）を有している。</li> <li>④人材面：金型の設計を自社で行い、メンテを行う技能者を有している。</li> </ul>	外部環境
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①経営面：後継者は決定しているが経営知識が不十分。</li> <li>②営業面：社長に依存している部分が大きく組織的な活動が不十分。</li> <li>③技術・生産面：製品別の損益管理ができていない。自動車部品分野での経験がない。海外の生産拠点が無い。</li> <li>④人材面：平均年齢が高く（48歳）なり、組織の新陳代謝が停滞している。</li> </ul>	
		機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>①市場の成長性：自動車部品業界での軽量化対策としてプラスチック材料の需要が高まっている。また、海外生産は進んでいるものの国内での一定台数の生産が残る。</li> <li>②参入障壁：自動車分野では既存メーカーの系列化が構築されているが、EVやハイブリッド等の新規分野では新たな調達先を模索する傾向にある。</li> <li>③技術動向：高付加価値製品や精密部品は国内生産が続く。</li> </ul>
		脅威	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家電メーカーの海外移転：家電メーカーでは海外生産を進めており、国内での需要が減少している。</li> <li>②国内企業（競合）：中堅のプラスチック成型メーカーは、顧客の海外移転に応じて海外生産に取り組んでいる。</li> <li>③海外企業（競合）：中国をはじめとする東南アジア圏での生産量が増加しており、特に汎用製品でのコスト面で国内メーカーは不利な状況。</li> </ul>

経営革新テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自動車分野への参入：新規事業分野として自動車関連部品業界への参入を図る。後継者候補の人脈を生かして情報収集と販路開拓を行う。</li> <li>②スーパーエンジニアリングプラスチックなど高機能製品の開発：自動車部品に必要な高機能製品の開発を積極的に行う。</li> <li>③生産革新活動：試作開発のスピードアップおよび量産品の生産性向上を図る。</li> </ul>
経営改善項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利益率の向上：現状の製品項目ごとの損益管理を行い粗利の3ポイント向上を図る。</li> <li>②製品品質の向上：自動車部品で要求されるレベルの品質確保を行うべくIATF16949の認証を取得する。</li> <li>③従業員の平均年齢の低下：若手の採用を積極的に行い長期的視点での組織の活性化を行う。</li> </ul>
事業承継の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家族会議の実施：一郎を後継者とした事業承継を実施していくことを正式に決定する。</li> <li>②社内外への通知：社内および社外関連機関（金融機関、取引先等）へ後継者への事業承継計画概要を通知</li> <li>③後継者育成：社内業務全体の把握を行うとともに外部教育機関での経営能力向上のための教育を行う。</li> <li>④株式の相続：事業承継税制など各種優遇策活用を行う。</li> <li>⑤専門家の活用：上記優遇策活用について専門家の助言を得ながら進める。</li> </ul>

実行計画			
	事業承継準備期（2018年～2020年）	事業承継実行期（2021年～2023年）	事業承継後の計画（2024年～2026年）
経営革新の	<ul style="list-style-type: none"> <li>①経営革新認定の申請：新規事業分野への取り組みで経営革新の認定を受ける。</li> <li>②新製品開発：高機能製品開発のためのプロジェクトを発足する。</li> <li>③生産性向上：3Dスキャナ、3Dプリンタの導入による試作品の短納期対応と精度の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新中期計画の策定：自動車部品事業への参入</li> <li>②新製品の継続開発：自動車部品向け新製品の開発</li> <li>③生産性向上：量産品の生産計画の精度向上、短納期生産、在庫圧縮への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中期事業計画の継続推進：課題がある場合は代替施策の策定。</li> <li>②新製品の継続開発：前期開発製品の周辺製品の開発。</li> <li>③生産性向上：JIT生産への取り組み開始</li> </ul>
経営改善の	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利益率の向上：製品別の変動費と固定費の設定し製品別の限界利益の把握</li> <li>②製品品質向上：ISO9001(2015年版対応)（済）</li> <li>③若手社員の採用：継続的な新卒の採用を開始（毎年1名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利益率の向上：限界利益率（粗利）の3ポイント向上に向けた取組</li> <li>②製品品質向上：IATF16949（自動車関連品質マネジメント）取得</li> <li>③役員体制の変更：代表取締役、専務取締役の退任 一郎の代表取締役、Cの取締役就任。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利益率の向上：管理会計の導入によるさらなる経営効率の向上を図る。</li> <li>②製品品質向上：継続取組</li> <li>③若手の登用：新任管理職として若手社員の登用を図る。</li> </ul>
事業承継の	<ul style="list-style-type: none"> <li>①株式の対応方針の検討：親族内、親族外が所有する株式の移転、買取り方法を検討</li> <li>②事業承継時の資金計画の検討</li> <li>③家族会議の実施：一郎に会社を引き継がせることを決定する。遺言状の作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①株式移転の手続き：太郎から一郎への生前贈与、事業承継税制猶予手続き</li> <li>②代表者移転手続き：一郎への代表権の移転、太郎は非常勤の会長職就任、太郎への退職金支給</li> <li>③必要資金の調達：金融機関、事業承継補助金</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①太郎は会長職、相談役として、関係取引先、金融機関との調整サポート役を務める。2026年(72歳)で完全引退。</li> <li>②一郎は、会長不在でも関係取引先、金融機関との良好な関係を完全引継ぎ。</li> </ul>
後継者の	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社内での業務知識習得：ジョブローテーション</li> <li>②社外での研修参加：中小企業大学、奈良県後継者育成塾に参加</li> <li>③経営革新計画の策定：一郎が中心、専門家の助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社内通知：事業承継計画を社内外へ正式通知。</li> <li>②金融機関、取引先との関係構築</li> <li>③後継者のサポート役（新任取締役）の育成</li> <li>④新中期計画の策定：一郎とサポート役が中心となって取りまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①経営基盤の強化：社内の経営基盤を強化するための体制の強化（課題の見える化、現場への権限移譲自律的人材の育成等）</li> <li>②次期中期計画の策定：経営方針策定（役員）=&gt;事業計画の策定（部門長）。</li> <li>③必要に応じて専門家の活用。</li> </ul>

支援先企業	担当部署：氏名	電話	メール
支援先企業	担当部署：氏名	電話	メール

備考	
----	--